

# 経営比較分析表（令和5年度決算）

千葉県鴨川市 国保病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	14	-	ド訓	救輸
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
30,820	5,112	第2種該当	-	13：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

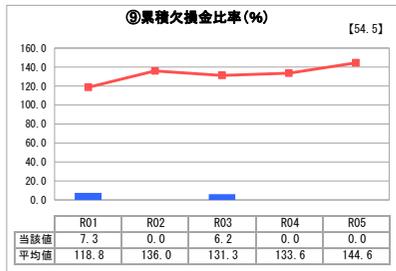
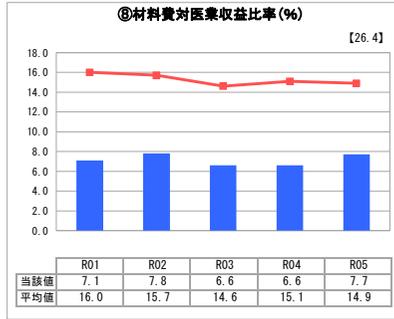
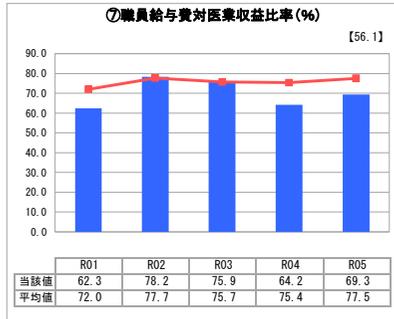
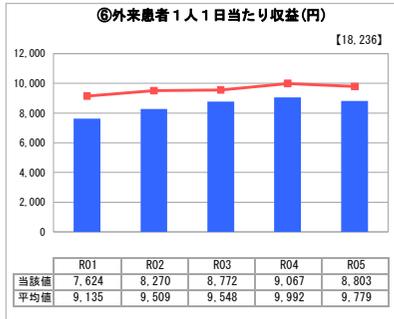
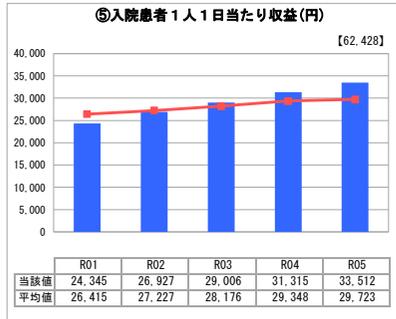
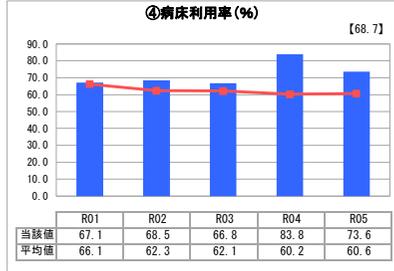
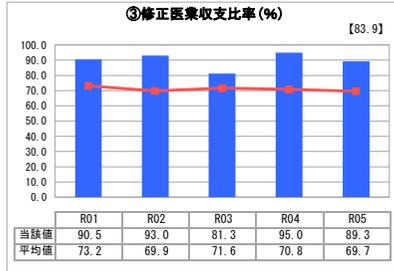
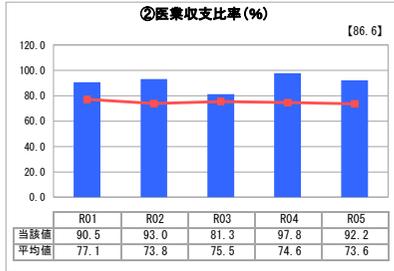
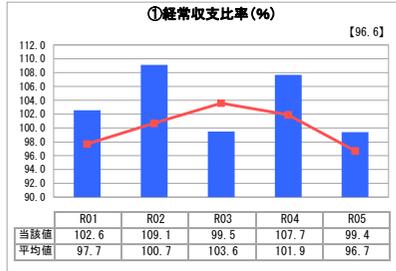
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
60	10	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	70
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
52	17	69

グラフ凡例

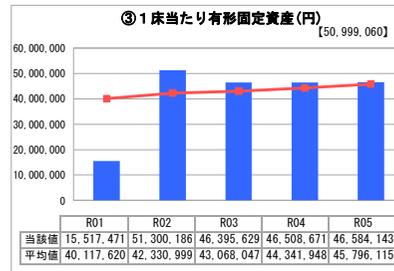
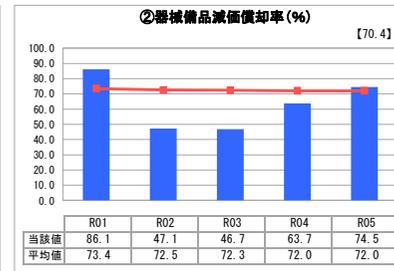
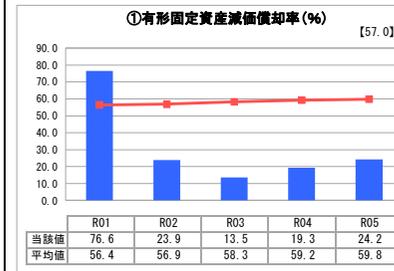
- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）

【】 令和5年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

業務の明確化・連携強化 (従来の明確化・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

### I 地域において担っている役割

当院は、市の中心から西方に約10キロメートル、国道410号線と主要地方道鴨川保田線が交差する交通の要所に位置しているが、中山間地域のため集落が山間地に点在し、高齢化が進んでいることから、高齢者等の交通弱者に対する交通手段の確保が必要な地域となっている。

また、当院から10キロメートル圏内に医療機関はなく隣接する君津市、南房総市、鋸南町の市域を含む中山間地域唯一の二次救急指定医療機関（千葉県救急告示病院）となっていること、及び鴨川市地域防災計画において、当院は災害時の応急救援活動における後方医療施設としての役割等を担っていることから、救急医療を含め引き続き災害時医療における役割を担っていく必要がある。

### II 分析欄

#### 1. 経営の健全性・効率性について

- 経常収支比率は、入院患者数及び新型コロナウイルス接種料等の減少により医療収益が減少したため、前年度と比較して8.3ポイント低下した。
- 医業収支比率は、病床の転換により入院患者の受け入れを制限したため入院収益が減少し、前年度と比較して5.6ポイント低下した。
- 修正医業収支比率は、一般会計負担金の救急医療の確保に要する経費分36,294千円を控除した。
- 病床利用率は、入院患者数が前年度と比較して2,541人減少したことから10.2ポイント減少し73.6パーセントとなった。
- 入院患者1人1日当たり収益は、病床転換により一般病床数が増加したことにより前年度と比較して2,197円増加した。
- 外来患者1人1日当たり収益は、発熱外来患者数の減少により若干減少している。
- 職員給与と費対医業収益比率は、前年度と比較して職員給与費は、ほぼ横ばいであったが、医療収益が減少したため5.1ポイント増加した。
- 材料費対医業収益比率は、前年度と比較して材料費は物価上昇等により若干増加したが、医療収益の減少により1.1ポイント増加した。
- 累積欠損金比率は、入院収益及び新型コロナウイルス関連の収入が減少したことにより、当年度純損失7,703千円が生じたが、前年度未処分利益剰余金により相殺することができた。

#### 2. 老朽化の状況について

- 有形固定資産減価償却率は、令和2年度末に新病院が完成、令和3年度に旧病院の解体及び駐車場を整備したことにより減少したが減価償却費の計上により増加している。
- 器械備品減価償却率は、令和2年度末に病院の閉院に合わせて医療器械備品を更新したことにより減少したが、減価償却費の計上により増加している。
- 1床当たり有形固定資産については、令和2年度末において新病院の完成及び医療用機械等を更新したことから大幅に増加し、令和3年度に旧病院解体による除却で減少、その後老朽化した機械等を定期的に更新しているため少しずつ増加している。

### 全体総括

収入については、令和5年度の入院患者数が、病床転換の準備等から介護療養病床への入院患者数を制限したこと、また、一般病床は、救急患者等の受け入れにより看護必要数の高い患者が増え、今の看護師では入院患者への対応が難しくなったため入院患者を制限したことから令和4年度と比較して2,541人減少し、入院収益は38,130千円減少した。また、新型コロナウイルス接種数の減少により令和4年度と比較し公衆衛生活動収益は28,707千円減少し、それに伴う交付金（千葉県ワクチン個別接種促進事業交付金）は29,796千円減少した。

支出については、減価償却費等の減少により対前年度比16,880千円減少したものの、収益合計から費用合計を差し引いた結果、当年度純損失7,703千円を計上することとなった。

今後は、病床利用率の向上及び加算等による入院収益の増加及び当院の立地が中山間地域にあることから、訪問診療を増やすなどして外来収益の確保を図りながら、一般会計からの繰入金を活用し病院経営の基盤を強化していく必要がある。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。